



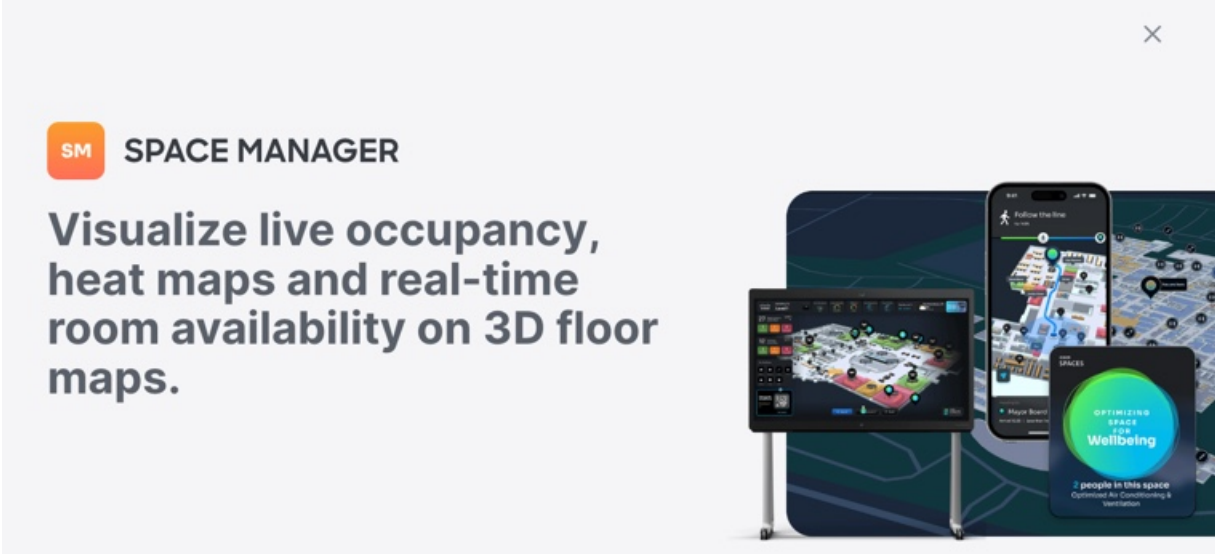
Space Manager

- [Space Manager の概要, on page 1](#)
- [デバイスの管理, on page 3](#)
- [部屋の管理, on page 4](#)
- [ユーザーの管理, on page 13](#)

Space Manager の概要

Space Manager アプリケーションを使用すると、施設マネージャは、Cisco Meraki、Cisco IoT デバイスおよびセンサーなどの統合デバイスをワークスペースで設定し、会議室の収容人数や空き状況などのリアルタイムの使用状況データにアクセスすることができます。

Figure 1: Space Manager



SM SPACE MANAGER

Visualize live occupancy, heat maps and real-time room availability on 3D floor maps.

About the App

Visualize live occupancy and environmental conditions across your building with dynamic 3D maps. Instantly identify underused areas, crowded zones, or comfort issues by tracking room capacity, air quality, temperature, humidity, and noise. Add, edit, or remove devices and sensors and update workspace metadata such as name, type, and capacity – all in one place.

[Close](#) [Open App](#)

また、このアプリケーションでは、周囲の温度、湿度、空気質、ノイズなどの環境関連のテレメトリも、会議室、フロア、または建物の 3D デジタルマップに表示されます。

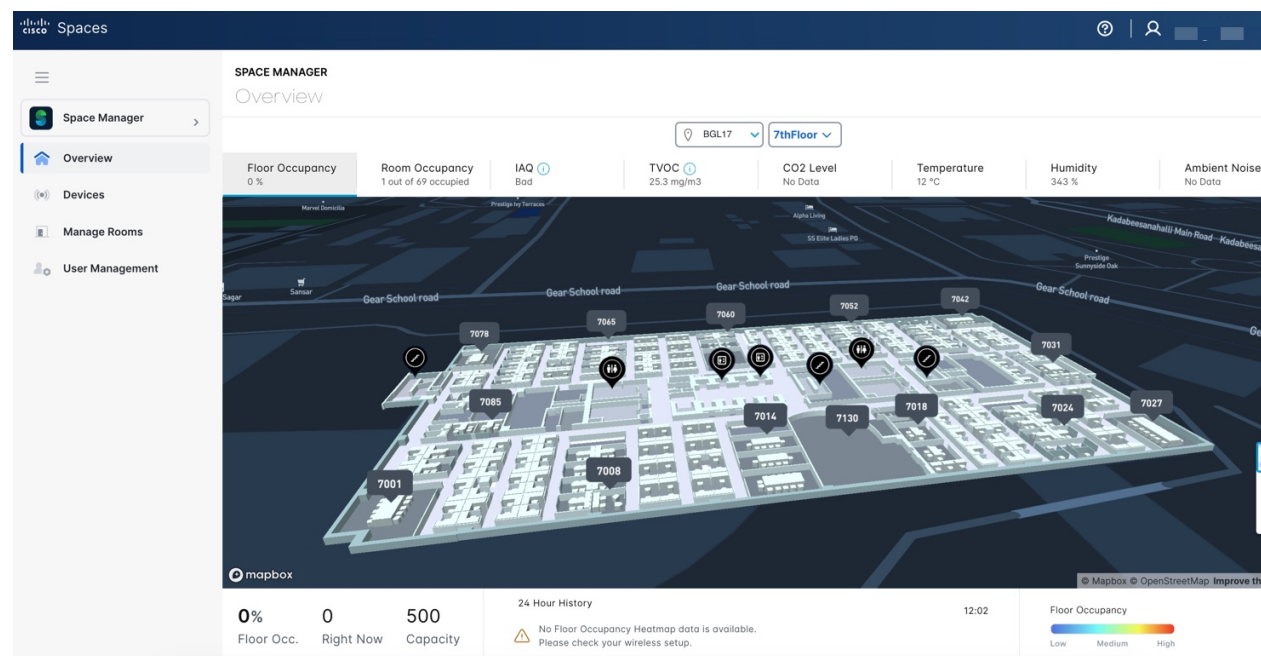
- [デバイス (Devices)] セクションでは、設定されたデバイスとそのテレメトリの詳細をデジタルマップに表示できます。
- [部屋の管理 (Manage Rooms)] セクションでは、設定された会議室の数とその詳細、例えば関連付けられているデバイスの数などを表示できます。選択した会議室のデバイスを追加または削除することもできます。

- [User Management] セクションでは、すべての **Space Manager** ユーザーと割り当てられたロールのリストを表示できます。また、特定のキャンパス、Meraki組織、建物、またはネットワークにユーザーを招待するオプションもあります。

Space Manager アプリケーションは、次のライセンスタイプに関連付けられています。

- ACT (UI では [Advantage] と表示)
- UNLIMITED
- PREMIER_W
- PREMIER_CW

Figure 2: Space Manager アプリケーション



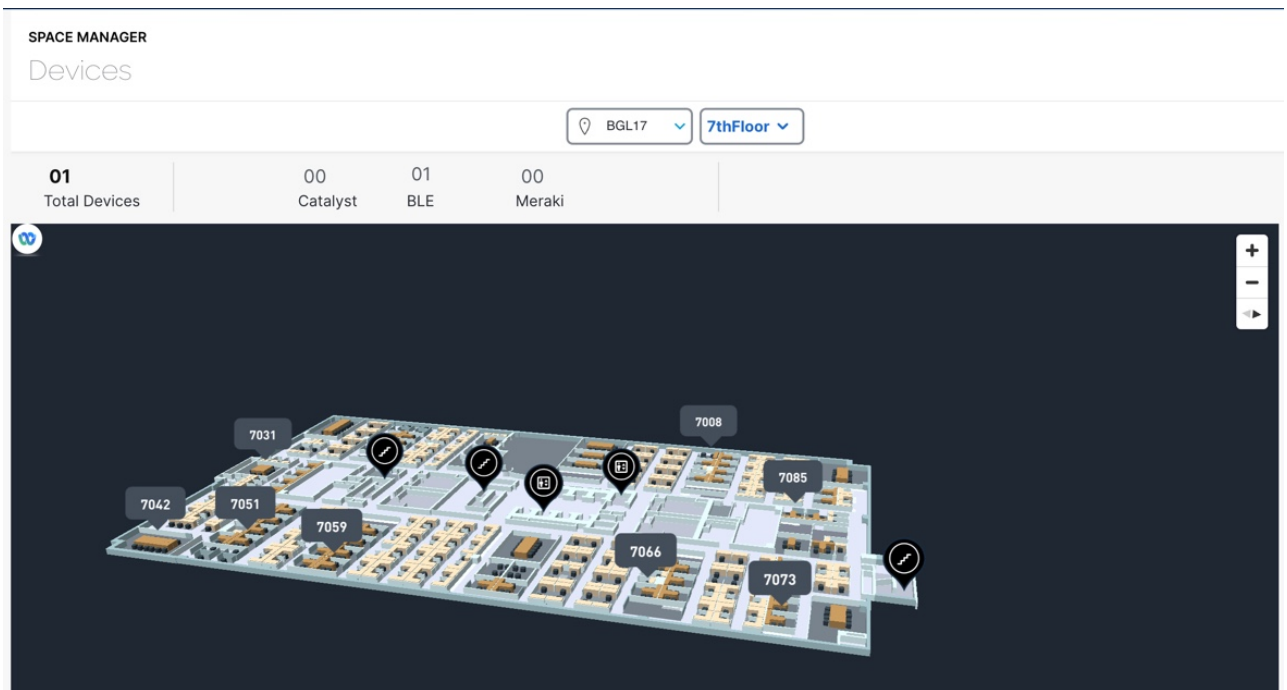
デバイスの管理

Procedure

- Step 1** Cisco Spaces で、[ダッシュボード (Dashboard)] > [Space Manager]を選択します。
[Space Manager] ウィンドウが表示されます。
- Step 2** 左側のペインで、[Devices] をクリックします。
- Step 3** フィルタオプションのドロップダウンリストから、建物とフロアを選択します。
- Step 4** 以下のデバイスの詳細を表示します。

- Total Devices
- Catalyst
- BLE
- Meraki

Figure 3: デバイス



部屋の管理

Space Manager アプリケーションの [部屋の管理 (Manage Rooms)] ページで、建物またはフロア内のさまざまな部屋に関する情報を表示できます。

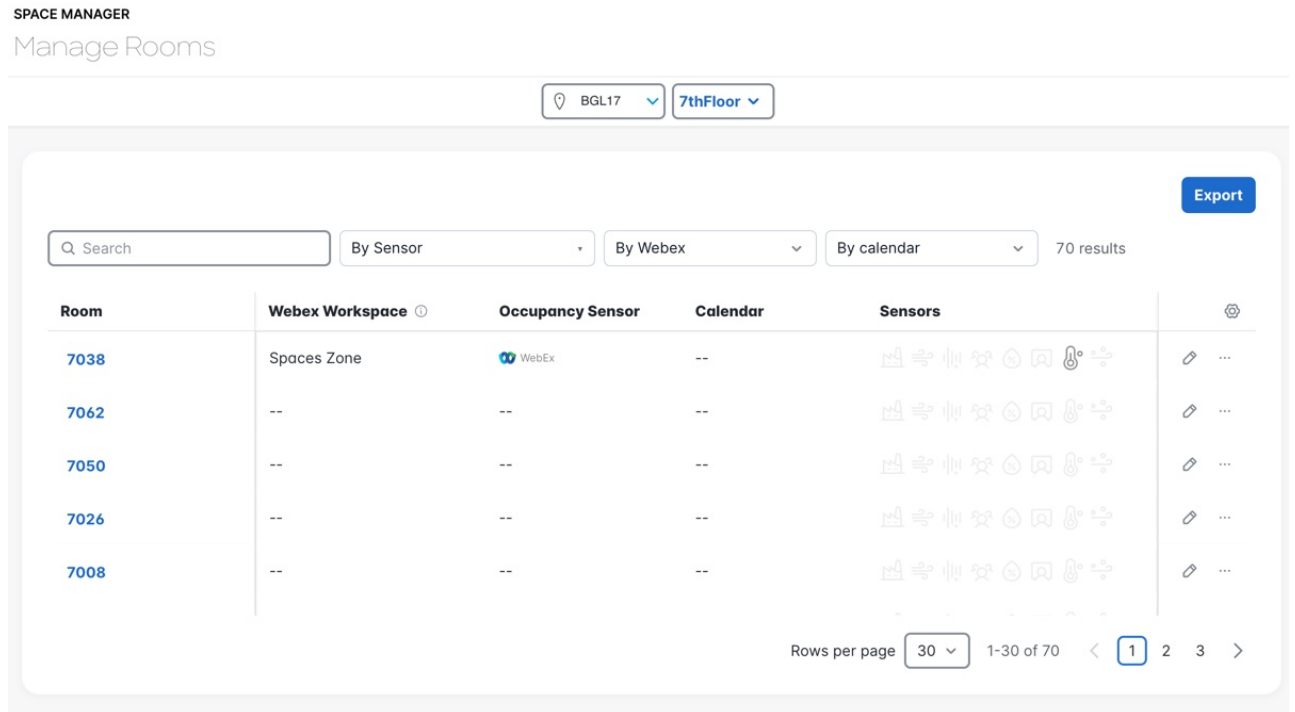
選択した部屋について、[キャパシティ (Capacity)] および [タグ (Tags)] のメタデータを部屋の詳細に追加して、追加情報を確認できます。これらの変更は、ユーザーが部屋をより効率的に管理できるようにすることを目的としています。

Procedure

- Step 1** Cisco Spaces で、[ダッシュボード (Dashboard)] > [Space Manager] を選択します。
[Space Manager] ウィンドウが表示されます。

Step 2 左側ペインで、[部屋の管理（Manage Rooms）] をクリックします。

Figure 4: 部屋の管理



Step 3 [部屋の管理（Manage Rooms）] ページに、設定済みの部屋の一覧を含むテーブルが表示されます。
次のパラメータに関する設定情報を表示できます。

- Webex ワークスペース
- 人感センサー
- カレンダー
- センサー

[検索（Search）] フィールドを使用して、会議室を検索します。

Step 4 フィルタオプションのドロップダウンリストから、建物とフロアを選択します。

Step 5 レコードをフィルタ処理するには、次のドロップダウンリストのいずれかをクリックします。

- [センサー別（By Sensor）]: 必要なセンサーフィルタオプションを選択します。
- [Webex別（By Webex）]: 必要なフィルタオプションを選択します。
- [予定表別（By calendar）]: 必要なフィルタオプションを選択します。

Step 6 [エクスポート（Export）] をクリックして、部屋の詳細を CSV 形式でエクスポートします。

Step 7 必要に応じて以下を実行します。

- これらのパラメータのいずれかを編集するには、[編集 (Edit)] アイコンをクリックします。
- 3つのドットをクリックすると、[IoTセンサーの追加 (Add IoT Sensors)] および [Webexワークスペースの切断 (Disconnect Webex Workspace)] オプションが表示されます。
[IoTセンサーの追加 (Add IoT Sensors)] をクリックして、センサーデバイスを追加します。詳細については、[IoT センサーの追加, on page 9](#) を参照してください。
- [設定 (Settings)] アイコンをクリックして、表示オプションをリセットまたはフィルタ処理します。詳細については、[テーブルの設定, on page 11](#) を参照してください。

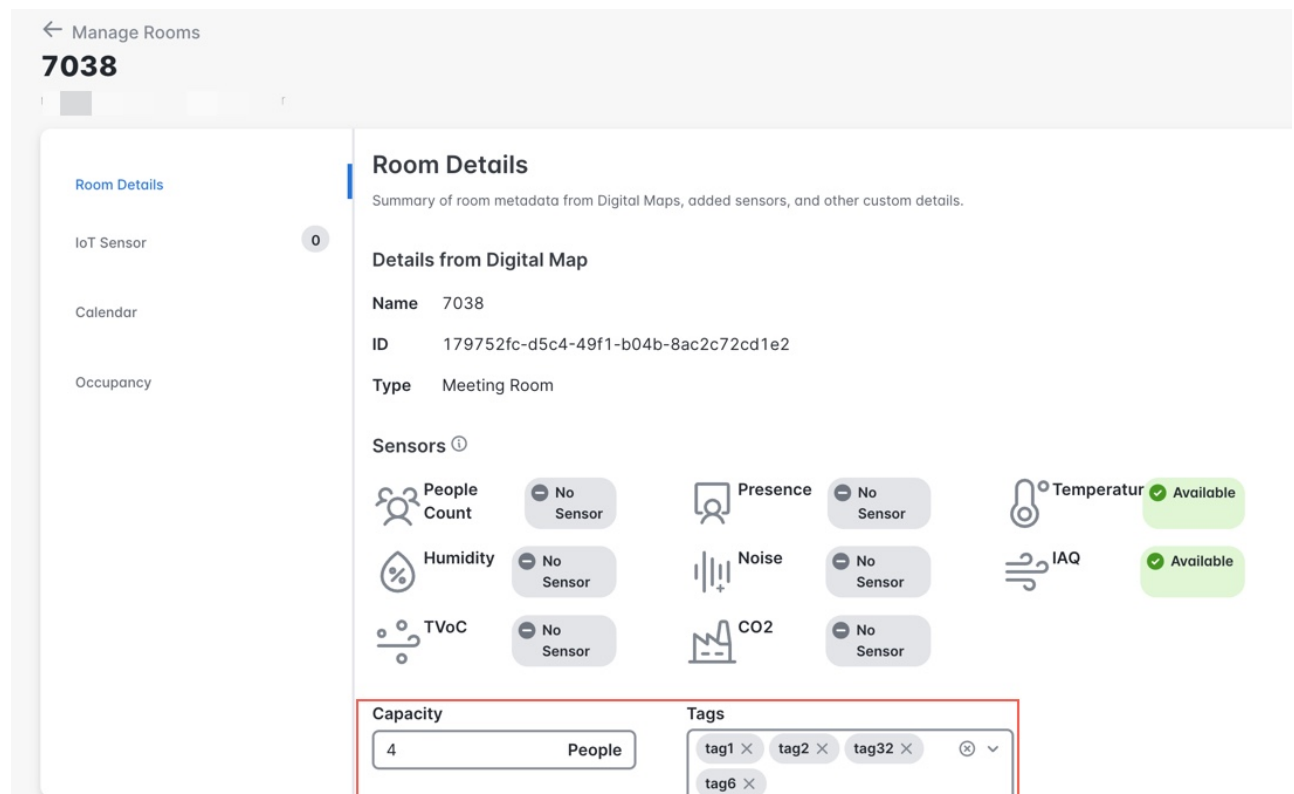
Step 8

部屋をクリックすると、デジタルマップ、追加されたセンサー、およびその他の関連情報に基づいて、部屋のメタデータの概要が表示されます。

左側のペインには、以下のオプションが表示されます。

- 部屋の詳細
- IoT センサー
- カレンダー
- 占有率

Figure 5: 部屋の詳細

**Step 9**

[部屋の詳細 (Room Details)] セクションでは、選択した部屋に関する次の操作を実行できます。

- [キャパシティ（Capacity）] フィールドに収容人数を入力します。
- 使用可能なタグのリストを表示するには、[タグ（Tags）] フィールドをクリックします。
- 必要なタグのチェックボックスをオンにします。
- [Save] をクリックします。

Figure 6: 部屋の詳細

Room Details

Summary of room metadata from Digital Maps, added sensors, and other custom details.

Details from Digital Map

Name 7038

ID 179752fc-d5c4-49f1-b04b-8ac2c72cd1e2

Type Meeting Room

Sensors ⓘ

 People Count	☐ No Sensor	 Presence	☐ No Sensor	 Temperature	☒ Available
 Humidity	☐ No Sensor	 Noise	☐ No Sensor	 IAQ	☒ Available
 TVoC	☐ No Sensor	 CO2	☐ No Sensor		

Capacity

People

Tags

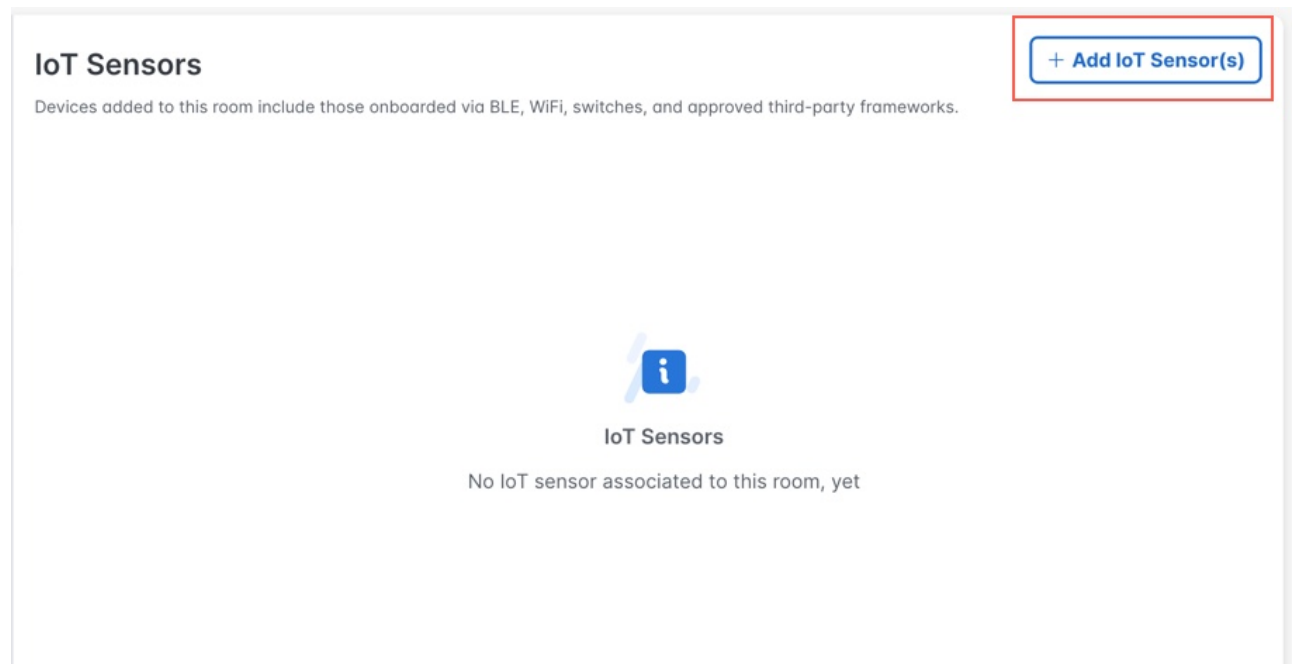
tag1 × tag2 × tag32 × × ▾

tag6 ×

Step 10

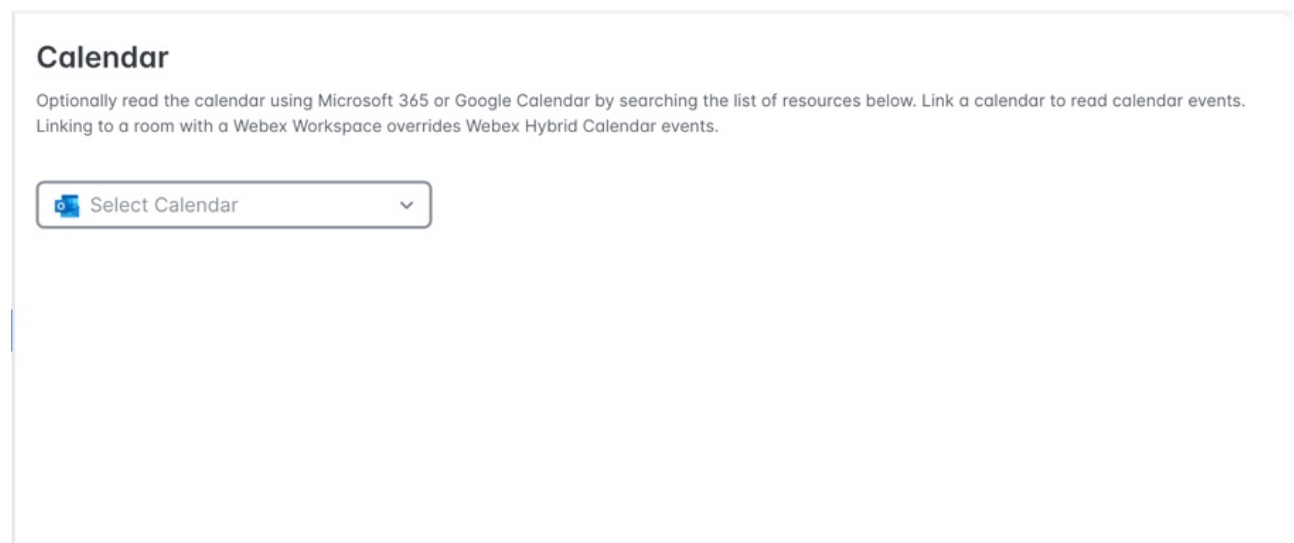
[IoTセンサー（IoT Sensor）] セクションで、[IoTセンサーの追加（Add IoT Sensor(s)）] をクリックして、選択した部屋に **IoT センサーデバイス** を関連付けます。

Figure 7: IoT センサー



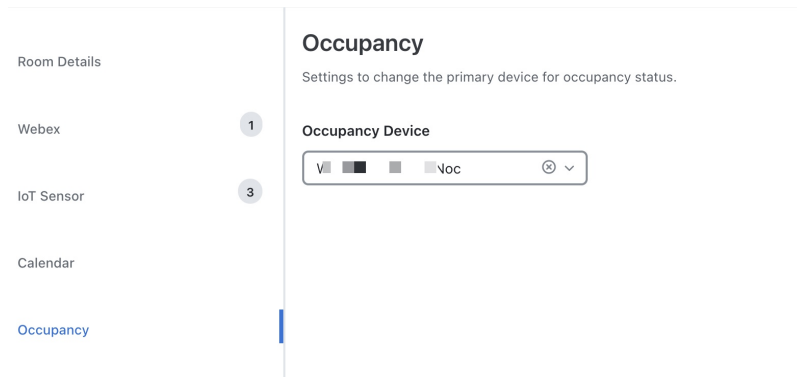
Step 11 [予定表（Calendar）] セクションで、[予定表の選択（Select Calendar）] ドロップダウンリストから、予定表を選択してリンクし、予定表イベントを読み取ります。

Figure 8: カレンダー



Step 12 [使用状況（Occupancy）] セクションで、プライマリデバイスの使用状況ステータスを更新します。

Figure 9: 占有率



- a) [使用状況デバイス（Occupancy Device）] ドロップダウンリストからデバイスを選択します。
- b) [使用状況タイプ（Occupancy Type）] を選択します。次のオプションがあります。
 - プレゼンス + 人数
 - 人数
 - プレゼンス

Step 13 [保存（Save）] をクリックして更新内容を保存します。

IoT センサーの追加

[IoTセンサーの追加（Add IoT Sensor(s）] ページで、管理者は、使用可能な IoT センサーデバイスを選択した部屋に関連付けることができます。このページには、ワークスペースの近隣で使用可能なすべてのデバイスが表示されます。

Procedure

Step 1 [IoTセンサーの追加（Add IoT Sensor(s）] ページで、必要なデバイスタイルの横にあるチェックボックスをオンにします。

Figure 10: IoTセンサーの追加

← Manage Rooms

8001

Q Search

← Back Add IoT Sensor(s)

Q Search

Device Type Sensors

The devices listed below are the devices that are available in your workspace vicinity.

☒ 469900-wired
WIRED

Location Q B S >

Sensor Type W

MAC Address 4

☐ TechOpsNoc

☐ ManualDevice

☐ Portal Beam2
N/A

Cancel Save

Please configure the floor map for this location.

Step 2 選択したデバイスについて、下矢印をクリックして詳細を表示します。

- 参照先
- センサータイプ
- MAC アドレス（MAC Address）

Step 3 左側パネルの上部で、以下のフィルタオプションを使用して、使用可能なデバイスのリストを絞り込むことができます。

- [検索（Search）] フィールドを使用して、名前または識別子でデバイスを検索できます。
- [デバイスタイプ（Device Type）] ドロップダウンリストから、[有線（Wired）] または [BLE] を選択して、カテゴリ別にデバイスをフィルタ処理します。
- [センサー（Sensors）] ドロップダウンリストから、必要なセンサー関連デバイスオプションを選択して表示を絞り込みます。

次のオプションがあります。

- 湿度
- AQI
- 天気
- 温度
- CO2

- プレゼンス

Step 4 ロケーションのフロアマップを設定します。

Step 5 [Save] をクリックします。

テーブルの設定

テーブルの設定を使用すると、行の間隔を調整し、表示する列を選択し、列の順序を調整することで、テーブルの外観とレイアウトをカスタマイズできます。

[テーブルの設定 (Table Settings)] にアクセスするには、[部屋の管理 (Manage Rooms)] ウィンドウの [設定 (Settings)] アイコンをクリックします。

Figure 11: テーブルの設定

Table settings ×

Table density

☐ Condensed

☒ Compact

☐ Comfy

☐ Spacious

Column settings

Select or deselect to show or hide columns. Reorder columns by dragging.

⋮ ☒ Room

⋮ ☐ Capacity

⋮ ☐ IoT Sensors

⋮ ☒ Occupancy Sensor

⋮ ☒ Calendar

Reset to default Cancel Apply

[テーブルの設定 (Table Settings)] スライドインウィンドウでは、次のアクションを実行できます。

テーブル密度の変更

[テーブル密度 (Table density)] エリアで、テーブル内の行の表示間隔を選択します。次のオプションがあります。

- [最小 (Condensed)]: 間隔を詰めてより多くの行を表示します。
- [コンパクト (Compact)]: バランスのとれた間隔で表示します。
- [快適 (Comfy)]: 読みやすくするためにパディングを追加します。
- [最大 (Spacious)]: 読みやすさを最大化するために最も広い間隔で表示します。

列の表示/非表示

[列の設定 (Column settings)] で、チェックボックスを使用して列の可視性を制御します。

- 列を表示するには、チェックボックスをオンにします。
- 列を非表示にするには、チェックボックスをオフにします。

利用可能なオプションは下記の通りです。

- 容量
- IoTセンサー (IoT Sensors)
- 人感センサー (Occupancy Sensor)
- カレンダー (Calendar)



Note [部屋 (Room)] 列は必須であり、非表示にすることはできません。

列の順序変更

[列の設定 (Column settings)] では、ドラッグハンドル (グリップアイコン) を使用して列をドラッグし、順序を変更できます。変更の適用後、新しい列の配置を反映してテーブルが更新されます。

変更内容の保存または破棄

設定パネルの下部で、以下をクリックできます。

- [適用 (Apply)]: 変更を保存し、テーブルを更新します。
- [キャンセル (Cancel)]: 保存せずにパネルを閉じます。

Note

Space Manager で使用可能なユーザーロールを表示するには、**[ユーザー管理 (User Management)]** ウィンドウの **[ロール (Roles)]** タブをクリックします。

- ユーザーのアクセス権限に応じたロール。[Read Write User] (フルアクセス) または [Read Only User] (読み取り専用アクセス) を選択できます。
- Cisco Spaces で使用可能な [Location Hierarchy] からのロケーション。すべての場所を表示するには、[場所の選択 (Choose Locations)] をクリックします。

Step 6 [Send Invitation] をクリックします。

Step 7 既存のユーザーを削除するには、[Users] テーブルで、目的のユーザーを選択して [Delete] をクリックします。
[Users] テーブルが表示され、使用可能なユーザーと割り当てられたロールが一覧表示されます。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。